

課題整理総括表(参考資料)

利用者名		様				
自立した日常生活の 阻害要因 (心身の状態、環境等)	①					
状態	④					
移動	「状態の事実」の「現在」 利用者宅の訪問、面談したり、関係者から申し送り で把握した情報(事実)に基づき、それぞれ日常的 にしているかどうかを判断して記入。	全介助		改善	維持	悪化
食事	「状態の事実」の「要因」 「状態の事実」の「現在」欄で「自立」「支障なし」以外 を選択した項目で、その要因として考えられるものを 「自立した日常生活の阻害要因」から選択し、丸数字で 記入。複数の原因が考えられる場合は、複数の番号を 選ぶ。	自立	支障あり	改善	維持	悪化
排泄	「状態の事実」の「備考」 「状況の事実」の「現在」あるいは「改善/維持の可能性」 に関して補足すべき情報を記入。 例)「現在」欄で「支障あり」とした場合、 具体的な支障の内容を記載。「一部介助」「全介助」 では、支援内容を記載。「改善/維持」とした場合は、 何故そのような可能性があるかと判断したかその理由。 介護支援専門員の判断根拠を記入	自立	支障あり	改善	維持	悪化
口腔	「状態の事実」の「備考」	自立	支障あり	改善	維持	悪化
服薬	「状態の事実」の「備考」	自立	支障あり	改善	維持	悪化
入浴	「状態の事実」の「備考」	自立	支障あり	改善	維持	悪化
更衣	「状態の事実」の「備考」	自立	支障あり	改善	維持	悪化
掃除	「状態の事実」の「備考」	自立	支障あり	改善	維持	悪化
洗濯	「状態の事実」の「備考」	自立	支障あり	改善	維持	悪化
整理・物品の管理	「状態の事実」の「備考」	自立	支障あり	改善	維持	悪化
金銭管理	「状態の事実」の「備考」	自立	支障あり	改善	維持	悪化
買物	「状態の事実」の「備考」	自立	支障あり	改善	維持	悪化
コミュニケーション能力	「状態の事実」の「備考」	支障なし	支障あり	改善	維持	悪化
認知	「状態の事実」の「備考」	支障なし	支障あり	改善	維持	悪化
社会との関わり	「状態の事実」の「備考」	支障なし	支障あり	改善	維持	悪化
褥瘡・皮膚の問題	「状態の事実」の「備考」	支障なし	支障あり	改善	維持	悪化
行動・心理症状(BPSD)	「状態の事実」の「備考」	支障なし	支障あり	改善	維持	悪化
介護力(家族関係含む)	「状態の事実」の「備考」	支障なし	支障あり	改善	維持	悪化
居住環境	「状態の事実」の「備考」	支障なし	支障あり	改善	維持	悪化

「自立した日常生活の阻害要因」
情報の収集・分析が終わった後に、自立した生活が阻害されているより根本的な要因を絞り込んで記入。原因疾患を書くのではなく、その病気が管理できずに要介護状態に至った要因などを書く。

「状態の事実」の「改善/維持の可能性」
「状況の事実」の「現在」欄で「自立」「支障なし」以外の選択項目について、認定有効期間を見通して、「必要な援助(フォーマル、インフォーマル)」を利用した場合「現在」の状況が「改善」「維持」する可能性の有無を検討し、「改善」「維持」「悪化」のいずれかに○をする。「悪化」が見込まれる場合もその分析の過程で「維持」の可能性を十分検討する。多職種からの意見を踏まえる。

「状況の事実」の「備考」
「状況の事実」の「現在」あるいは「改善/維持の可能性」に関して補足すべき情報を記入。
例)「現在」欄で「支障あり」とした場合、具体的な支障の内容を記載。「一部介助」「全介助」では、支援内容を記載。「改善/維持」とした場合は、何故そのような可能性があるかと判断したかその理由。介護支援専門員の判断根拠を記入

「状態の事実」の「要因」
「状態の事実」の「現在」欄で「自立」「支障なし」以外を選択した項目で、その要因として考えられるものを「自立した日常生活の阻害要因」から選択し、丸数字で記入。複数の原因が考えられる場合は、複数の番号を選ぶ。

作成日

利用者及び家族の生活に対する意向	お父さんと一緒にこの家で暮らしたい	
見通し ※5	生活全般の解決すべき課題(ニーズ)【案】	※6
「見通し」 「自立した日常生活を妨げている要因」の解決に向けて多職種からアドバイスを受けて、当該ケアプランの短期目標の期間を見据えて「どのような援助を実施することにより(要因解決のための必要と考えられる援助内容)「状況がどのように変化することが見込まれるか」を記入。「要因」-「要因解決のために必要な援助内容」-「援助を利用した場合に到達が見込まれる状態」と簡潔にまとめる。 例) 「室内移動」が「改善」となっている場合、要因である下肢筋力の低下と住宅環境に着目して、その要因を改善するために必要な援助を整理して書く。	課題の優先順位を踏まえて記入。利用者としてすりあわせた結果、当該プランには反映しない(できない)課題は「-」印を記入する	
	「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)」 「見通し」欄を踏まえて記入。「利用者の望む生活」が捉えられていることが前提。サービス担当者会議前に作成することから、介護支援専門員が情報収集・分析を踏まえて、専門職として提案する合意前の案であっても差し支えない。	

※1 本書式は総括表でありアセスメントツールではないため、必ず別に詳細な情報収集・分析を行うこと。なお「状況の事実」の各項目は課題分析標準項目に準拠しているが、必要に応じて追加して差し支えない。
 ※2 介護支援専門員が収集した客観的事実を記載する。選択肢に○印を記入。
 ※3 現在の状況が「自立」あるいは「支障なし」以外である場合に、そのような状況をもたらしている要因を、様式上の「要因」欄から選択し、該当する番号(丸数字)を記入する(複数の番号を記入可)。
 ※4 今回の認定有効期間における状況の改善/維持/悪化の可能性について、介護支援専門員の判断として選択肢に○印を記入する。

※5 「要因」および「改善/維持の可能性」を踏まえ、要因を解決するための援助内容と、それが提供されることによって見込まれる事後の状況(目標)を記載する。
 ※6 本計画期間における優先順位を数字で記入。ただし、解決が必要だが本計画期間に取り上げることが困難な課題には「-」印を記入。